

キッズを増やす戦略からスポーツ少年団と共存 (北坂戸総合型地域スポーツクラブ 埼玉県坂戸市)

1. 子ども対象の種目を増やす方針へ

北坂戸総合型地域スポーツクラブ(以下、ウェル北坂戸)は、3年前(平成21年)の設立当時、「老人クラブ」に近い状態がありました(設立当初の全会員数に占める高齢者会員の割合が68%)。しかし周辺の新興住宅地には30代の子育て世代が多く住んでいて、その母親達の悩みは「横のつながりがない」ことでした。その母親達のニーズに応えるべく、ウェル北坂戸では幼児から小学生以下の子ども(キッズ)対象の種目開設に力を入れることで、付き添いの母親同士のコミュニケーションや関係を生み、口コミにより一気にクラブの会員数が増えました(現在15種目、約490人が活動中)。

このようにウェル北坂戸にとってキッズ対象の種目開設が最優先課題という背景があり、その中でスポーツ少年団(以下、少年団)との共存が考えられました。

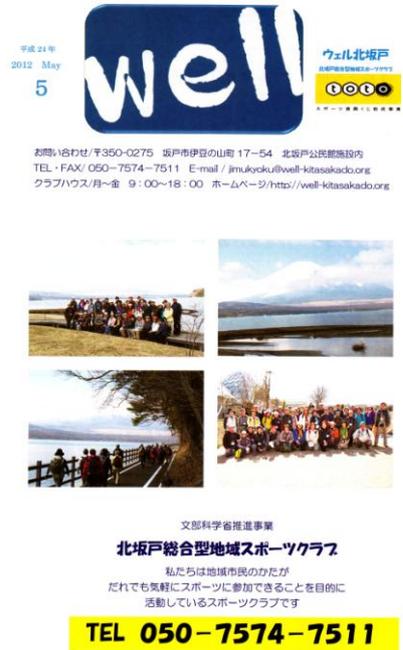
「地域の子ども達とふれあう機会ができた、高齢者の方にも喜ばれています」と事務局長の工藤新太郎さんは言いますが、これは「若い世代が住みたいまちづくり」へとウェル北坂戸が方向転換した成果とも言えます。

2. 少年団のクラブへの加入経緯と挨拶する子どもたち

24年前(昭和63年)から北坂戸に住む川原道雄さん(現ウェル北坂戸顧問)は、平成15年にソフトテニスの少年団をつくり、団登録しました。順調に伸びていた団員数は、平成21年頃から加入者が減少して予算のやりくりが大変になり、活動場所として使用していた中学校の合併で施設が利用できなくなる状況にもありました。総合型クラブに加入すれば施設の確保ができ、当初は予算面の支援を受けられ、クラブに経費的にサポートしてもらえるメリットもあったため、川原さんの少年団は平成22年4月1日にウェル北坂戸に加入、クラブ内には小学生対象の「ジュニアソフトテニス」の種目が誕生しました。

ジュニアソフトテニス教室は現在、男子14名、女子27名、計41名の会員で、土日祝の午後を中心に活動を行っています。月会費は1,500円で、クラブ加入前より500円会費がアップしましたが、クラブ会費から少年団やソフトテニス連盟への登録料を支払う形になっています。

「ジュニアソフトテニス」の子ども達は、県少年団主催のリーダースクールで研修を受けています。「社会性や指導力を身につけて、中学校の部活動でもリーダーシップを発揮しています」と川原さん、「ジュニアソフトテニスの子ども達は、気持ちよく挨拶してくれますよ」と工藤さんは目を細めます。



ウェル北坂戸のロゴと会報紙

3. クラブ加入の勧誘方法と収支の透明性

ウェル北坂戸へ加入する際、少年団の保護者への勧誘方法は、「練習後、個別に話をしました。構えていくと先方も身構えるので雑談のように。また、6人の役員が積極的に動いてくれたおかげです」と川原さん。

月々500円、会費が上がりましたが、以前からボールの購入などで負担となっていた経費面でクラブのサポートを受けられるようになったことから、反対の声はありませんでした。クラブ側では保護者に対して、コピー用紙代が年間いくらかかったかなど、領収書も公表して会費の用途を明確にしているそうです。

少年団側から見てクラブに加入してよかった点は、付き添いや見守りなど活動のサポートをしている保護者達の「育成会」にとって経理などの事務部分はクラブが担うようになり負担が軽くなったことと、少年団員にとって他の種目の子ども達との交流からソフトテニス以外の競技を知る機会が増えたことでした。

他方、クラブ側が少年団と共存してよかった点は、子どもと共に保護者もクラブ全体の運営に参加するようになったことや、クラブの会員数がまとめて増えたことがあげられます。

4. 課題と展望

ウェル北坂戸内のスポーツ少年団員は、クラブ会費の中から少年団やソフトテニス連盟の登録料を支払ってもらっており、「クラブ会費ー少年団登録料等」のお金で、クラブの一般会員と同じサービスを受けています。クラブではジュニア種目（全9種目）で、少年団登録の有無による会費の不公平感への心配があり、現在の課題は、このような不平等感への対応です。現段階では、できるかぎりの説明をして会員に理解してもらえるように努力しているそうです。

また現在、地域の近隣中学校では学校部活動に入部することを推奨されており、何らかの部活動に所属すると、部活動の後にクラブに来ることがほとんどなくなります。また、クラブで小学生時にソフトテニスをしていても、進学した中学校にソフトテニス部がなければ他の種目に変えなければなりません。仮にクラブに中学生対象のソフトテニス教室ができて、中学校単位で行う試合には出られません。「県内で『クラブカップ』としてリーグをつくりたい。少子化ですから仕組みを変える必要があります。スポーツ好きな子どもたちをスポーツから排除しているのが現状です」と工藤さんは嘆きます。

クラブの今後の取り組みとして、今年（平成24年）5月から始めた「チャレンジスポーツクラブ」は幼稚園児対象の多種目体験教室ですが、小学生になったら9種目あるジュニアの教室を選んでもらい、さらに専門性をめざすならクラブ外の少年団へ加入してもらうなどの環境整備を考えています。

ジュニアの教室を卒業した子ども達が、将来親になったら親子でクラブに戻ってくることまで視野に入れ、プログラムを構成しています。

「次は30代が主役。世代交代と存続のサイクルがあるのが『クラブ』で、関わる人が楽しくなければ意味がありません。そのためには、実現可能性のある共通の『夢』が必要です」、また、「少年団のリーダー制度は知らなかったですが、いいですね」と工藤さんは締めくくりました。

（取材日：平成24年6月4日）



向かって右から、工藤さん、川原さん、
クラブ育成アドバイザーの加藤さん

【参考資料】北坂戸ジュニアソフトテニスクラブ指導理念（赤い文字は強調部分）

理 念	ソフトテニスを通じて、心身を鍛錬し、スポーツを愛し、 フェアプレイに徹した 、健康で明るい善良なジュニアを育成する。
指導方針	<ol style="list-style-type: none"> 1. 礼儀正しく、スポーツマンとしての迅速・機敏な行動を習慣づける。 2. 各自の役割と責任を自覚させ、積極的にその役割を遂行させる。 3. あらゆるルールを正しく理解し、遵守適応する能力を付与する。 4. 運動原理を理解させ、原理に沿った基本的動作を重視し指導する。 5. 集中して忍耐強く練習する習慣を培う。 6. 楽しさを味あわせ、向上心を持たせる。
指導要領	<ol style="list-style-type: none"> 1. 能力別にグループを編成し、グループ毎に指導する。練習の始めと終わりには全体統一してメンタルな面を指導する。 2. グループ毎に年度計画、必要に応じ各期の計画を作成し、指導する。 3. 技術的指導にあたっては、各項目毎にマニュアルを作成し、指導する。 4. 毎回の練習は項目の選定と時間配分による。（前 何を練習するか明示 後 振り返り） 5. 成果の確認と向上心を持たせるため、各種大会に参加させる。

【北坂戸総合型地域スポーツクラブ（ウェル北坂戸） プロフィール】

1. 設立 年月日：平成 21 年 2 月 28 日
経緯：平成 21 年、坂戸市主導で、市教育委員会、市体育協会、地区自治会が母体となり創設、4 種目 4 教室から始まった。
2. 地域 人口：約 101,500 人（坂戸市、平成 24 年 4 月現在）
特性：埼玉県中部にあり、東京へ通勤する住民が多く住むベッドタウンであるが、急速に高齢化が進んでいる地域。
3. 運営 会員数：485 名（平成 24 年 6 月 1 日現在）
予算規模：約 1,500 万円（平成 24 年度、toto 助成金 800 万円含む）
4. 特徴 設立当初 68%を占めていた高齢者会員は現在 34%に、キッズ会員は 0%から 58%に割合が増え、全体の会員数が設立当初の 5 倍超になり急成長中。
5. 連絡先 〒350-0275 埼玉県坂戸市伊豆の山町 17-54 北坂戸公民館施設内
TEL/FAX：050-7574-7511
Email：jimukyoku@well-kitasakado.org
URL：<http://well-kitasakado.org/>